

これまでの経緯と本協議会における検討を踏まえた方向性（案）

【過去の経緯】

平成24年5月から平成26年2月にわたり、西東京市立中原小学校及び西東京市立ひばりが丘中学校建替準備検討協議会（以下、「建替準備検討協議会」という。）では、市が「学校施設適正規模・適正配置庁内検討委員会 平成23年度における検討結果 最終報告書」で結論づけた中原小学校及びひばりが丘中学校の建替え案に関する事項を検討し、それに伴う課題を整理し、その中で12案の通学区域を提示した。

【本協議会でのこれまでの検討】

<基本的な考え方>

- 施設の移転による通学距離を踏まえた見直し（いびつな通学区域の解消）
- 両校の一定の学校規模と学校教育・部活動の充実（生徒が切磋琢磨できる環境づくり）
- 教員の確保も含めた学校経営を安定化（計画的な教員配置）

建替準備検討協議会の12案のうち、平成40年度までの学級数の推計などを元に、第2回と第3回の地域協議会会議で3つの案を提示。

第3回の地域協議会で委員から出された3つの案に関する意見

- 小学校から複数の中学校に分散することへの配慮
- 谷戸町1丁目の線引きの調整
- 南側の地域からの通学距離を踏まえた線引き

【これまで提示した3つの案を委員からの意見をもとに集約】

① 第1案と第2案の修正版

両案は両中学校の区域を上下に分けるかたちで谷戸町1丁目の分割の有無の差であったが、委員の意見を踏まえ、谷戸町1丁目区域の線引きを再調整した。

② 第3案の修正版

委員の意見を踏まえ、住吉町2丁目、田無町3丁目、北原町1丁目を田無二中区域にし、谷戸町1丁目区域の線引きを再調整した。